

令和6年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年5月8日(水) 15:20~16:30

2 場 所 盛岡第三高等学校 大会議室

3 出席者 12名/13名

(自治会代表、PTA代表、行政関係、近隣小中学校長、地元企業、同窓会代表、本校校長)

土川 敦 高畑 嗣人 三浦 隆 觸澤 吉輝 影山 佳奈
桜 ひろ子 海野 尚 木下 伸一 高木 浩一 阿部 俊之
森 理彦 木村 基(校長) (委任状提出者 藤村 誠)

(オブザーバーとして、校内委員(副校長、事務長、各分掌主任)11名、生徒会役員3名が出席)

4 内容

(1) 議題

ア 会長、副会長選出

イ 学校経営計画について

(2) 協議内容

学校経営計画について

【校長】

昨年度と変更した部分3点について説明する。

1つめは、全体的に具体的な取り組みなどの記述を簡素化し見やすい形に整理をした。

2つめは、重点目標について、「カ 不適切な指導の根絶」に係る目標を新たに設定した。それに伴って取り組み方針を示した。これは再発防止岩手モデルの策定を踏まえて、今回新たに盛り込んだもの。昨年度までは重点目標が5つだったが、1つ増やして、6つにした。「オ」のいじめに関しては県教委から岩手県のいじめの重点目標を学校の重点目標に位置付けるよう指示があり、「オ」の部分については昨年度と文言を変更している。

3つめは、達成指標の部分。「ア」の、授業改善と学習指導の充実での達成指標については、昨年度まで用いていた授業評価を、今年度は学習意欲の方へ変更した。授業評価を3.5は内なる目標としては引き続き持つておくが、今年度は授業を通じて生徒の主体的な学びへ繋がっているかどうかという学びの主体性の方にシフトしたい。「ウ」のキャリア教育の充実と生徒の希望進路の達成については、昨年度の第3回学校運営協議会での意見を踏まえ、自己のあり方生き方を考え進路実現のために努力しているとの項目に改めた。新たに加えた「カ 生徒の人格を尊重し、不適切な指導を根絶する意識の醸成」については、安心して学校生活を送ることができているという新たな指標を設けた。

その他、情報発信ツールとしての「note」の活用、また、近隣地域の方に学校の様子を伝える手段として、紙媒体による学校広報誌「鴻鵠之志」を引き続き配りたい。

【議長】

令和6年度の岩手県立盛岡第三高等学校学校経営計画について、委員の意見をいただきたい。本会の協議を経て公表するという段取りになっている。

【議長】

特にないようなので、一度協議を閉じるが、この後の意見交換を通して、何かあったらお願いしたい。

(3) 意見交換

ア 働き方改革について、小学校、中学校での様子、盛岡市の動き

(ア) 小学校

【委員】

大きなところでは、配布物を紙からデータへ全て変換した。子供が紙の文書を家に持ち帰ることがなくなって、職員の印刷業務、担任の配布業務が軽減。情報の不完全なやり取りがなくなった。保護者に直接情報が伝わる。そういった意味で、効果が認められソフトを導入した。大きな改革だと思っている。

(イ) 中学校

【委員】

中学校の方は、思うように進んでいないのが現状。細かな改革は進んでいる。例えば朝の出欠連絡をメールソフトで行い、もちろん電話でいただくこともあるけれども、担任あるいは全体もすぐに関わり負担軽減になっている。高校もだと思いが、部活動の時間はどうしても長時間を占めている。できるだけ複数顧問を、中学校ではなかなか教員数少なくて難しいけれども、それを実現するようにして交代で休めるようにしている。昨年始まった例として、計画年次の取得ということで1学期とか1ヶ月の中に何回は休みを取るようにしようということを行っている。事前に申請して、時間割も微調整して教職員が少しでも休みを取りやすくできるような取り組みを始めたところ。

(ウ) 市や町での捉え方

【委員】

市議会の中では、先生方の時間外勤務も多くなって、なかなか子どもに向き合えていないのではないかという話は出ていると聞いている。盛岡市では、今年、校務支援システムを教育委員会で予算化して、秋から運用を開始し負担軽減を図りたいとのこと。

イ 三高での学びを将来どのように活かすか

【生徒A】

まだ具体的に固まってははいないけど、一度は岩手を出て生活し、その中で総合的な探究の時間や情報の時間などで学んだ地域の特色を理解し、地域の歴史を理解していきたい。そして岩手に帰ってきたときに、他のところと比べてみて、岩手はどうだろうかとか、岩手では何が求められているかを考え、地域との繋がりを考えていきたい。

【生徒B】

先日、母と話をして、最近の若い世代に人の温かみを感じられないという話が出た。私自身も、公共交通機関の中で席を譲らない若者を見たり、挨拶を返さない方がいたりすることからそういうことを感じていた。三高で部活動を通じて礼儀や挨拶を、先生方や先輩から学んだ。将来は教師になるのが夢。教師になって、若い世代や新しい世代に礼儀を正しく教えて、温かい心を育みたい。少しでも貢献できればいいなと考えている。

【生徒C】

私はボランティア活動を通して岩手県と関わりたい。他の県と比べて岩手県は面積が大きいのでそのような特徴を生かした活動をしたい。また、私は将来動物と関わる仕事に就きたい。動物保護団体や盲導犬への活動に興味を持っている。

ウ 安全指導について

【委員】

自転車通学について、高校ではヘルメットの着用は義務付けられているのか。ヘルメットの着用については、どのようになっているのか。

【生徒指導】

努力義務ということもあって、なかなか強く言えない部分も残しながら、集会やホームルームでは推奨という形で、できればつけてほしいと指導している。交通安全講習会などで着用するように、特にも事故時の被害をどのように軽減させるかというような話を頂いたところ。継続して呼びかけていきたい。

【委員】

街頭指導を行うことがあり、高校生は着用率が低い。高校によっては学校がヘルメットを被りましょうという指導しているところがあると聞いたことがある。

【委員】自分の命は自分で守るということを、もう少し強く言ってもよいのではないか。

エ 地域連携

(ア) 中学校からみた盛岡三高

【委員】

距離的に近いということもあるのだろうが、それだけではなく、三高の魅力というものを、子供たちは何となく感じているのだろう。それは何か。参加型授業、総合的な探究の時間の取り組み、部活動などいろいろな魅力はあるのだけど、それらをひっくるめて、三高の学校風土になっているのだろう。かつての「さわやか三高」、雰囲気明るくて自由で活気があって、そういうイメージがあるのだろう。そういった良さをぜひたくさん中学生に感じさせてもらいたい。

また、今年から高校の入試制度が変わり、いわゆる特色入試がスタートする。アドミッション・ポリシーにあるように、「こういう生徒を本校では求めている。こういうカリキュラムを用意している。こういうことができるようになって卒業できる。」と説明を受けるのだが、中学生は、自分は中学校で何をどういうふうに頑張れば認めてもらえるのかが、まだピンと来ていない。中学生が理解できるような発信がほしい。高校からそういうメッセージとかアピールが届くことによって、中学校での勉強や活動がすごく豊かになったり広がったりという可能性も出てくるのではと、大いに期待している。

(イ) 小学校からみた盛岡三高

【委員】

小学生が生活科や総合の学習で三高を訪れる機会を得ている。いつもありがたいと感じている。時間をもらって、総合の発表をし、子供たちが三高生にお兄さんお姉さんを感じて憧れを持って見ている。同時に、学びの深まりが見られており、感謝している。直接的に繋がる場所は少ないけれども、やはり一番身近な高校ということで間違いなく特別な意識を持って毎日見ているし、いい影響を与えてもらっていると思っている。

(ウ) 地域からみた盛岡三高

【委員】

普段三高に思っているイメージは、バランスの取れている学校というイメージ。学業の方も優秀だし、スポーツもやるし印象的なこととして、文化部のサマーコンサートに行ったときに、野球部員が盛り上げるために本当によく頑張っていたことがある。

小学校教員だったが、三高出身の先生たちがいろいろな会になると、盛り上げてくれたり、団結し何かするときにはすぐまとまったりというイメージがすごく強い。偏った見方かもしれないが、私は岩手県を考えたときに、三高生に活躍して地域を盛り上げてほしいなと思っている。とにかく学業と人間関係とスポーツの面のバランスがすごくいい学校だと思う。

オ 情報発信について

【委員】

学校広報誌「鴻鵠之志」が見えるエリアっていうのは、高松4丁目の町内会だけなのか。もっと広げていいのではないかな。

【副校長】

現在高松4丁目だけ。そこだけで、55枚の回覧板となっている。何かアイデアがあればお寄せいただきたい。

カ キャリア教育について

【委員】

生徒が将来何になろうとか、ビジョンとかを持っているのはすごいなと思った。それはどのようにできていくものなのか、自分たちで活動することからか。学校ではどのような指導を行ったものか。

【副校長】

総合的な探究の時間の中で、さまざまな活動を行う中で、身につけていったもの。

【委員】

職業観についての指導については、どのようになっているか。

【副校長】

職業観も、探究活動や、自分の好きをどういうふうに学びに活かしていくかということも2年生から始めている。探究しながら勤労観であるとかそういうふうなところを育てていければいいなと思って展開している。進学を第一希望に入学してくる生徒が多いけれども、そういったところも大事にしたいと思っている。

【委員】

企業や施設などとの連携はどのようになっているのか。

【副校長】

2年生の総合的な探究の時間では、企業や施設との連携も可能と話している。インタビューやいろいろなことが可能とアナウンスしている。場合によっては、運営協議会の委員の皆さんに協力をお願いすることもあるので、その際は協力いただきたい。

キ SRHについて

【委員】

去年、特に良かったなと思っているのは、それまでのポスター発表からクラスを仕切った発表を加えたこと。他の高校で見たことないスタイルだった。発想もいいし成果として積極的にアピールすべき。

他校との連携について、他県の高校の実践にも関わっているので情報提供は可能。うまくマッチングさせたいもの。

評価の指標については、文科省の指標を参考にしてみてもどうか。そうすることで、発表の際に何をどのようにしてこうなったのかなどの説明がしやすくなると思う。